

令和 6 年度

## 「運営に関する計画」

大阪市立東淀中学校

令和 6 年 4 月

## 1 学校運営の中期目標

### 現状と課題

昨年、5月8日に新型コロナウィルス感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律が5類感染症に移行したことにより、それまでの過去3年間において制限や変更、中止があった学校行事などの取り組みが再開できた。今年度においても、活動制限することなく、感染防止対策は継続しながらも、校内の現状や課題に対して効果的に生徒への支援や改善を実施し、課題解決に向けて学校運営を進めていく。

この数年間は、生活指導面においては学校内外での生徒の問題行動が減少し、一定の規律を保たれた状況で教育活動を遂行することができている。しかしながら、生徒間のSNSに関連するトラブルは発生しており、引き続き、いじめなどの防止については、生徒への指導を継続なければならない。また、自ら学習に取り組む姿勢など、生徒の主体的な行動を高めるまでには至っていない。ただ、生徒自身の意識については、アンケート結果から年々向上している。「授業中まじめに学習に取り組んでいる」の質問では、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合は48%であるが、2年生は51%、3年生は53%と過半数を超えており、1年生でも39%と比較的に低いながらも、「どちらかといえば、そう思う。」も含めると肯定的な意見としては93%であり、今後の教育活動による改善が期待される。また、「学校に行くのが楽しい。」との質問に肯定的に答える割合は、86%とし、過去3年間の83%を上回る。ただし、「どちらかといえばそう思う。」という消極的に肯定する生徒が肯定する生徒全体の中で多くあり、生徒の意識も含め、まだまだ多く改善する余地がある。

不登校生徒は依然として大阪市平均に比べ高い状態にあるものの、「それぞれの立場を思いやれる学級になっている。」において肯定的な意見が85%と一昨年度と比較して改善されており、個に応じた適正な対応から、全体的には改善がみられている。継続して、生徒個人のアセスメントを行い、外部関係機関と連携しながら、校内体制を整え、さらに改善することを目標とし取り組んでいく。また新たな不登校生徒が増加しないように、事前防止につながる仲間づくりを推進していく。

学力面においては、全国学力・学習状況調査や中学生チャレンジテストの本校3年生平均は全ての教科で大阪市平均を下回っている。しかし、2年生チャレンジテストでは社会、理科が大阪市平均を上回り、数学も大阪市平均に達している。チャレンジテストの同一母集団においては、得点が府平均の7割未満である生徒の割合が改善されている。

これまで外国語教育の中長期的な対策を最大の課題として、外国語教育における小中連携を発展させ、校内でも英語教育に力を注いできた。依然として課題は改善されず、今年度においても、これまでの取り組みを維持しつつ、授業を見直し、「わかる」授業の推進により、基礎学力の定着と個に応じた学力向上を推進していく。それには、学力向上に向けて自学自習の習慣を身に付けさせたい。さらに、考える力と応用力を伸ばし自らの課題解決に向けて成長させたい。

## 中期目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度末の校内生徒アンケートにおいて「学校に行くのは楽しい」に対して肯定的に回答する生徒の割合を85%以上とする。
- 令和7年度末の校内生徒アンケートにおいて「自分には良いところがありますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を80%以上とする
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査において「将来の夢や目標を持っていますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を70%以上とする
- 令和7年度末の校内調査において前年度不登校生徒の改善の割合<sup>\*</sup>を65%以上とする。

※大阪市教育振興基本計画の不登校への対応より抜粋

前年度不登校であった生徒のうち、不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の1~3に該当しているなど総合的な判断により、不登校の状態が改善されたとする人数を把握

- 1 出席日数の増
- 2 I C Tの活用等による、本人・保護者と学校がつながる回数の増
- 3 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査において平均正答率の対全国比を国語・数学とも0.95以上とする。
- 令和7年度の大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を50%以上とする。
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において体力合計点の平均を男女とも全国平均以上とする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度末の校内生徒アンケートにおいて「授業や学級活動などで、パソコン・プロジェクトなどのI C T機器を積極的に利用している」に対して肯定的に回答する生徒の割合を85%以上とする
- 令和7年度末の保護者アンケートでの「学校は教育活動の様子を保護者や地域に伝えている。」の項目についての肯定的回率を80%以上とする。
- 令和7年度末の校内生徒アンケートにおいて「学校の図書室を利用するなど、よく読書をしている」に対して肯定的に回答する生徒の割合を40%以上とする。
- 令和7年度末において教員の勤務時間の上限に関する基準2<sup>\*\*</sup>を満たす教職員の割合を80%以上とする。

※学校園における働き方改革推進プランより

基準2 1年間の時間外勤務時間が720時間以下、時間外勤務時間が45時間を超える月数6以下、時間外勤務時間が100時間を超える月数0、直近2~6か月の時間外勤務時間の平均が80時間を超える月数0、を全て満たす。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【安全・安心な教育の推進】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も、肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を82%以上にする。  
(前年度 80%)

○年度末の校内調査における、不登校の在籍比率を前年度より減少させる。  
(前年度 10.4%)

○年度末の校内調査における、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる  
(前年度 82.0%)

学校園の年度目標

○年度末の校内生徒アンケートにおいて「学校は、生徒の健康や安全に配慮している」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を前年度より増加させる。  
(前年度 60%)

○年度末の校内生徒アンケートにおいて「将来に向けて進路やよりよい生き方について考える機会が多い」に対して肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。  
(前年度 79%)

○年度末の校内アンケートにおいて「相手の立場を思いやる集団」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を前年度より増加させる。  
(前年度 保護者23% 生徒41%)

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を38%以上にする。  
(前年度 37%)

○中学校チャレンジテストにおける、国語の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。  
(前年度 3年国0.95 2年国0.90)

○中学校チャレンジテストにおける、数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。  
(前年度 3年数1.00 2年数0.93)

○年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を前年度より増加する。  
(前年度 58.0%)

学校園の年度目標

○大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を39%以上とする。  
(前年度 37.9%)

○3年生における英検3級を取得している生徒の割合を30.0%に増加させる。  
(前年度 29.6%)

○年度末の校内生徒アンケートにおいて「自主的・主体的に活動していると感じる」の質問項目に対して肯定的に回答する生徒の割合を前年度より増加させる。

(前年度 93%)

○令和6年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点の平均を前年度よりも向上させる。

(前年度 男子 39.36 女子 43.84)

### 【学びを支える教育環境の充実】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

○授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が（ただし、学校行事等ICT活用が適さない日数を除く）、年間授業日の60%以上にする。

【新規設定項目】

○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を前年度より増加にする。

(前年度 84%)

#### 学校園の年度目標

○年度末の生徒アンケートでの「学校の図書室を利用するなど、よく読書をしている。」の項目についての肯定的に回答する生徒の割合を昨年度よりも向上させる。

(前年度 27%)

○年度末の校内生徒アンケートにおいて「授業や学級活動などで、パソコン・プロジェクターなどのICT機器を積極的に利用している」に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を前年度よりも向上させる。

(前年度 54%)

○令和6年度末の保護者アンケートでの「学校は教育活動の様子を保護者や地域に伝えている。」に対して肯定的に回答する割合を昨年度よりも向上させる。

(前年度 83%)

### 3 本年度の自己評価結果の総括

(様式 2)

大阪市立東淀中学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった	
年度目標	達成状況
<b>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</b> 大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標 ○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を 8 2 % 以上にする。 ○年度末の校内調査において、不登校の在籍比率を前年度より減少させる。 ○年度末の校内調査において前年度不登校生徒の改善の割合を前年度より増加させる。	(前年度 8 0 %) (前年度 1 0 . 4 %) (前年度 8 2 . 0 %)
<b>学校園の年度目標</b> ○年度末の校内生徒アンケートにおいて「学校は、生徒の健康や安全に配慮している」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を前年度より増加させる。 ○年度末の校内生徒アンケートにおいて「将来に向けて進路やよりよい生き方について考える機会が多い」に対して肯定的に回答する生徒の割合を 8 0 % 以上にする。 ○年度末の校内アンケートにおいて「相手の立場を思いやる集団」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を前年度より増加させる。	(前年度 6 0 %) (前年度 7 9 %) (前年度 保護者 2 3 % 生徒 4 1 %)
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 取組内容①【基本的な方向 1、安全・安心な教育環境の実現】 いじめの認知をアンケートや日々の観察による早期発見、早期解決を図り、いじめを許さない心を育てていく。 指標 「いじめについて考える日」を設定して、いじめに関する校長講話と学級活動を行い、いじめを許さない学級・学校づくりについて学校全体で再認識する。 学期に 1 回いじめアンケートを実施し早期発見、早期解決を図る。 いじめについての全体研修会を年 5 回以上実施し教職員の共通理解を図り、学年ごとに年 3 回以上いじめに関する取組を実施する。 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 8 2 % 以上にする。	進捗状況

#### 取組内容②【基本的な方向 1、安全・安心な教育環境の実現】

生徒の情報交換を密に行い、教職員が生徒理解に努め、問題行動や不登校の未然防止をするとともに早期発見を行う。生徒一人ひとりに寄り添った適切な支援を行うことで、問題行動や不登校の早期解決を図る。

##### 指標

学年は随時、週に 1 回主任会、教職員全体に月 1 回生徒の情報交換を行う。生徒一人ひとりの実態を把握し、それに応じた指導・支援をするため、学期に 1 回教職員全体でスクリーニング会議を開催し、必要に応じて外部機関と連携する。

日々生徒理解に努め、「アセス」を活用するとともに年 2 回以上教育相談を行う。

不登校の生徒において家庭と連携しながら学校に登校できるように支援する。不登校の在籍比率を前年度より減少させ、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

#### 取組内容③【基本的な方向 1、安全・安心な教育環境の実現】

自ら危険を回避するために主体的に行動する態度と安全で安心な社会づくりに貢献する態度を育成するため、区や消防署、地域連携して防災・減災教育を推進する。

##### 指標

「防災・減災カリキュラム」を適宜見直し、年間計画をもとに防災・減災教育を進める。年間 2 回以上校内で避難訓練を行い、防災意識を高める。区や消防署、地域と連携して防災・減災教育を生徒が主体的に取り組める活動になるよう実施する。

年度末の校内生徒アンケートにおいて「学校は、生徒の健康や安全に配慮している」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を前年度より増加させる。

#### 取組内容④【基本的な方向番号 2、豊かな心の育成】

生徒の勤労観や職業観を育てるため 3 年間を見据えたキャリア教育の計画を作成し、実践する。

経年で職業講話、職場体験、出前授業とつながりを持った取組を行っていくことで将来への具体的な目標を持たせ、自発的な学習意欲と自己肯定感を育んでいく。

##### 指標

キャリアパスポートを活用しながら体系的・系統的にキャリア教育を進めるとともに、企業や団体との連携し、各学年とも年間 2 時間以上でキャリア教育体験活動を実施して進路選択への意識を高めていく。

年度末の校内生徒アンケートにおいて「将来に向けて進路やよりよい生き方について考える機会が多い」に対して肯定的に回答する生徒の割合を 80 % 以上にする。

#### 取組内容⑤【基本的な方向番号 2、豊かな心の育成】

人権教育や道徳教育の推進し、道徳心・社会性の育成を図る。さらに、集団行動訓練や活動を通じて、安全に配慮し、自他の生命の尊厳とともに互いの大切さを認め合い、支え合いながら問題解決できる集団づくりを推進する。

##### 指標

人権教育年間指導計画と道徳教育年間指導計画を作成し、計画的に実行する。命の大切さを自他ともに実感できるような取組を系統的に実施する。各学年で生命の大切さを育む授業を年 1 回以上行う。校内での格差や差別・偏見を生まない環境を整え、学校行事において集団づくりの取り組みを行い、自他の生命と尊厳を互いに

尊重し合う態度や自他の人権を守る実践行動につなげることで、年度末の校内アンケートにおいて「相手の立場を思いやる集団」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を前年度より増加させる。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

## 大阪市立東淀中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b>	
大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標	
○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を前年度より増加にする。 (前年度 37%)	
○中学校チャレンジテストにおける国語の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。 (前年度 3年 国 0.95 2年 国 0.90)	
○中学校チャレンジテストにおける数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。 (前年度 3年 数 1.00 2年 数 0.93)	
○年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を前年度より増加する。 (前年度 58.0%)	
<b>学校園の年度目標</b>	
○大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を39%以上とする。 (前年度 37.9%)	
○3年生における英検3級を取得している生徒の割合を30.0%に増加させる。 (前年度 29.6%)	
○年度末の校内生徒アンケートにおいて「自主的・主体的に活動していると感じる」の質問項目に対して肯定的に回答する生徒の割合を前年度より増加する。 (前年度 93%)	
○令和6年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点の平均を前年度よりも向上させる。 (前年度 男子 39.36 女子 43.84)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】 習熟度授業など個に応じた学習の推進をするとともに校内で相互参観週間を設け、全教員が研究授業を行うことによって授業改善を意識し、「わかる」「できる」授業を推進し、考える力と応用力を伸ばし自らの課題解決に向けて成長させる。	
指標 ICT機器の活用や主体的・対話的で深い学びなど課題を持って全教員が必ず研究授業を1回以上行う。授業を伴った校内研修会を実施し授業改善をすることで、	

年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を37%以上にする。

**取組内容②【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】**

各教科、各学年で学力向上に向けた取り組みを進める。各教科において家庭学習課題や長期休業中における学習課題を精選、提供する。学校元気アップ事業や学力向上支援チーム事業を活用して、テスト前学習会や放課後学習会を開催することで学習機会を増やし、自学自習の習慣を身につけさせる。学力向上を進めていく。

**指標**

各教科で全市共通テスト等の結果データを分析し、授業で活用するとともに共通テスト前にプレテストや対策学習を実施する。テスト前学習会の実施、放課後学習会を週2回以上開催する。

中学校チャレンジテストにおける国語及び数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。

**取組内容③【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】**

英検を受験することで目的意識を持たせ学ぶ意欲を高める。C-Net講師と連携した実践的な授業を工夫していくとともに、英会話能力を向上させる。

校区3小学校に先生を派遣し、小学校からの英語力の向上を目指す。

**指標**

3年生対象に英検を校内で実施し受験する。英語の授業においてC-Net講師と連携しながら英検取得の学習を行い支援する。また、英検や3年生大阪市英語力調査における4技能を伸ばすことに特化した授業を年間8時間以上行う。実際に英検3級以上を取得できた生徒の割合を昨年度より向上することを目指し、大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を39%以上にする。

英語教諭を小学校に派遣し、年間100時間程度、校区3小学校での英語授業を行う。

**取組内容④【基本的な方向番号5、健やかな体の育成】**

体育科においてダンスの授業に力を入れ、外部講師とも連携しながら、リズム感の育成と集団育成に役立てていく。

**指標**

1、2年生の体育授業において5時間以上ずつダンス講師の授業を行い、年3回以上の校内実技研修を実施し、授業においての成果を発表会の場で表現できるようにする。年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を58%以上にする。

**組内容⑤【基本的な方向番号5、健やかな体の育成】**

部活動の活性化を図り、体力の向上を目指すとともに、目標や成長の過程を身近なものにすることで、自尊心や達成感を持たせる。

保健体育の授業や体育行事を通じて運動意欲を高め、体力向上を図る。

**指標**

新入生に部活動への体験入部期間を設け、適正かつ希望する部活動へ入部できる

ようを行う。部活動指針に従い運営し、プレーヤーズファーストの精神に基づき生徒の意志や成長を最優先に指導することで、年度末の校内生徒アンケートにおいて「自主的・主体的に活動していると感じる」の質問項目に対して肯定的に回答する生徒の割合を94%以上にする。また、体育大会等の体育行事や日々の授業においてスポーツの楽しさと体力向上を意識させ、参加・活動させることで令和6年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点の平均を昨年度よりも向上させる。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

(様式 2)

大阪市立東淀中学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった	
年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p>大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標</p> <p>○授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が（ただし、学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く）、年間授業日の 60 % 以上にする。</p> <p>【新規設定項目】</p> <p>○年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 85 % 以上にする。 (前年度 84 %)</p> <p><b>学校園の年度目標</b></p> <p>○年度末の生徒アンケートでの「学校の図書室を利用するなど、よく読書をしている。」の項目についての肯定的に回答する生徒の割合を前年度よりも向上させる。 (前年度 27 %)</p> <p>○年度末の校内生徒アンケートにおいて「授業や学級活動などで、パソコン・プロジェクターなどの ICT 機器を積極的に利用している」に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を前年度よりも向上させる。（前年度 54 %）</p> <p>○年度末の保護者アンケートでの「学校は教育活動の様子を保護者や地域に伝えている。」に対して肯定的に回答する割合を前年度よりも向上させる。 (前年度 83 %)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向番号 6、教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</p> <p>ICT 機器を効果的に利用して、教育の質の向上を目指す。また、デジタル教材の活用で個に応じた学習と主体的な学びの育成を推進する。一人一台端末の使用により生徒の心の状態や日々の状態を可視化することで、いじめや不登校などの未然防止・早期発見につなげる。</p>	
<p>指標</p> <p>授業で ICT 機器の利用を進めることができるように環境を整え、授業で ICT 機器の活用を行う。毎日の朝学活において、一人一台端末を活用して、「心の天気」を入力させ、定期的にいじめアンケート等も入力させることで情報を共有し、生徒理解を深める。デジタル教材を活用した朝学活を週 2 回以上実施する。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向番号 7、人材の確保・しなやかな組織づくり】</p> <p>働き方改革を推進し、教員の長時間勤務の解消をしながら、生徒一人ひとりに対して向き合う時間を確保し、教員が健康的でかつ活気ある職場環境を目指す。</p>	

指標

毎週水曜日をゆとりの日と設定し、校内月中行事に記載する。実施日には、管理職よりゆとりの日を宣言し連絡黒板に明記する。ゆとりの日においては、原則生徒対応・生活指導対応以外は午後7時までの退勤とする。

これまで実施していた長期休業中の学校閉庁日の設定を継続して実施することで有給休暇の取得を促し、年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を85%以上にする。

取組内容③【基本的な方向番号8、生涯学習の支援】

生徒の読書環境を充実させることで読書を促し、読解力を高める。

生徒による文化委員会の活動を中心に、図書への意識を高め、図書室利用の活性化を図る。図書室の利用を通じて多様な知識を身に付けさせるとともに、広い視野で物事を考える力を養う。

指標

今年度内に図書室や学校図書等の活用する方法を議論し、取組を検討し実施する。

定期的に行う文化委員会の活動で図書室利用を促進する方法を議論して取り組む。毎月1回図書館だよりを発行し、図書への意識を高める。

年に1回リサイクル本フェアを実施し、気軽に図書を手に取ることができる機会を設ける。

年度末の生徒アンケートでの「学校の図書室を利用するなど、よく読書をしている。」の項目についての肯定的に回答する生徒の割合を昨年度よりも向上させる。

取組内容④【基本的な方向番号9、家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】

学校協議会により保護者や地域住民など学校関係者の意向を反映し、学校運営を行う。学校の情報を広く発信する。学校元気アップ地域本部事業を活用してボランティアによる学校支援を行う。これらの取り組みによって開かれた学校づくりを推進する。

指標

学校協議会において運営の計画の策定に意向を反映させる。

学校ホームページにて積極的に情報を発信して年間閲覧件数を50,000件以上にすることで、年度末の保護者アンケートでの「学校は教育活動の様子を保護者や地域に伝えている。」に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を昨年度よりも向上させる。学校元気アップ地域本部事業を活用して週2回の放課後学習会、テスト前学習会、週1回の図書室において地域ボランティアを配置することで自主学習支援、図書室の活性化を図る。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点